



朝倉被災地支援活動中

くるめ福祉 平成29年10月 6

九州北部豪雨から3か月 県内被災地に集ったボランティアの皆さん のべ41,664人

(平成29年8月31日現在 県社協速報値)

活発な梅雨前線の影響により、7月5日から福岡県や大分県を中心とした九州北部において、甚大な災害が発生しました。地域によっては今もなお、手つかずの家屋も数多くあります。災害発生直後から市と市社会福祉協議会では日本防災士会・久留米支部の協力を得て、災害支援のボランティアバスを運行し、一日約20人を朝倉市の災害ボランティアセンターに送りだしました。これまで32日間延べ573人に参加していただきました(8月31日現在)。ボランティアバスへの参加も含めこれまで30回以上、現地でボランティア活動に参加した永利昭弘さん(51)と、ボランティアバスに20回以上参加した寺岡あさな(18)さんに、被災地の状況やボランティア活動に参加しての感想をうかがいました。

《被災地の状況は どうでしたか?》

永利さん「『ひどい状況の中で、活動は家屋の天井まで積もった泥のかき出し、家財の片づけなどをしました。』

昼食の時に「冷たい水ばかり飲んでいたらお腹をこわすでしょう」と温かいスープを差し入れていただいたり、たくさんの交流がありました。

ボランティア活動に行つたのに、私の方が逆に被災された皆さんから、励まされていきました。』

《ボランティアバスに 参加した感想は》

寺岡さん「朝倉は大きく歪んだ建物、潰れた車、どこを見ても泥や流木だらけで、あまりの惨状に言

葉を失いました。

連日の猛暑の中、終わりの見えない作業は被災された人たちにとって、肉体的にも精神的にもとても苦しかったはずですが、温かく接していただき、私の方が元気をいただきました。

この災害を「恐ろしい災害だった」の一言で片付けないでほしいです。確かに自然の力は恐ろしく、人間は無力に見えるかもしれませんが。

しかし、様々な地域からたくさんの方がボランティアに集いました。そうした温かさや希望を忘れず、どんなに小さいことでも一人ひとりができることをしたら、状況は少し変わると感じました。』



比良松中学校のお礼の看板

災害ボランティア活動の注意点

- ①被災地の情報収集を行う**
活動予定の災害ボランティアセンターのホームページ等で事前に、活動の状況や注意点などを確認するようにしましょう。
- ②安全や体調については、自分自身で管理する**
被災地での活動は、危険を伴うことや重労働もあります。体調が悪ければ無理をしないようにし、しっかりと休憩、水分補給することが大切です。
- ③被災地での宿や食事等は自分で調達する**
必ず被災地の状況を確認して、手配するようにしてください。水や食料も携帯して行くようにしましょう。
- ④被災者のプライバシーに配慮する**
マナーある行動で活動に参加してください。ボランティア活動中に得た個人情報、外部へ漏らしてはなりません。
- ⑤被災地では受け入れ機関の指示に従う**
現地での指示に従い、単独での行動は避けてください。組織的に活動することで、より大きな力になります。
- ⑥必ずボランティア活動保険に加入する**
事前に地元の社協で加入手続きを済ませてから参加しましょう。



被災地へ義援金を寄付し 応援する方法もあります

名称	受付期間
「平成29年7月5日からの大雨災害義援金」	平成29年12月28日まで
「東日本大震災義援金」	平成30年3月31日まで
「熊本地震災害義援金」	

問い合わせ

日本赤十字社久留米市地区(市社会福祉協議会内)
TEL 0942・34・3035
FAX 0942・34・3090